

# 1人1台端末を効果的に活用した 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善

令和4年7月29日（金）  
大分県教育庁佐伯教育事務所  
後藤 竜太

0972-22-3011、gotou-ryuuta@oen.ed.jp

---

## 本日の内容

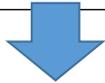
- （1）学習指導要領の趣旨**
- （2）学校教育の情報化とICT活用**
- （3）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**
- （4）山田指導教諭の発表**
- （5）協議・演習**

# 「生きる力」の理念の具体化

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（H28.12.21答申）】

第1部 学習指導要領改訂の基本的な方向性  
 第3章「生きる力」の理念の具体化と教育課程の課題

○新しい学習指導要領等には、**各学校がこうした教育課程の検討・改善や、創意工夫にあふれた指導の充実を図ることができるよう、「生きる力」とは何かを資質・能力として具体化し、教育目標や教育内容として明示したり、教科等間のつながりがわかりやすくなるよう示し方を工夫したりしていくことが求められる。**



☞「生きる力」とは何かを、**資質・能力**として具体化

☞各学校における**教育課程**の検討・改善と、**指導の充実**



## 【学習指導要領】

- ◆すべての教科等の目標・内容を**資質・能力の3つの柱で再整理**
- ◆**カリキュラム・マネジメント**の充実
- ◆**主体的・対話的で深い学び**の視点からの授業改善

## 新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
 学びに向かう力・人間性の涵養

何が身に付いたか

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
 思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
 社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現  
 各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

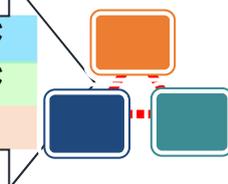
新しい時代に必要となる**資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し**

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など  
 各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善**

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び  
 対話的な学び  
 深い学び



# 学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメント

教育活動の充実・改善

何ができるようになるか

何が身に付いたか

第1 小学校教育の基本と  
教育課程の役割

第3 教育課程の実施と学習評価

何を学ぶか

第2 教育課程の編成

子供の発達を  
どのように支援するか

第4 児童の発達の支援

個に応じた指導

どのように学ぶか

第3 教育課程の実施と  
学習評価

実施するために何が必要か

第5 学校運営上の配慮事項

家庭・地域との連携・協働

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して  
～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、  
協働的な学びの実現～（答申）

令和3年1月26日  
中央教育審議会

学習指導要領の趣旨の実現に向けた  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する  
参考資料

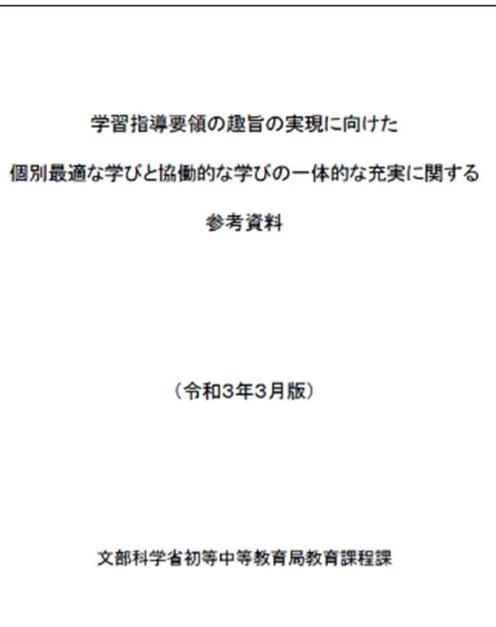
（令和3年3月版）

文部科学省初等中等教育局教育課程課

[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)

[https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt\\_kyoiku01-000013731\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf)





## 【目次】

## 1. 本資料作成の趣旨

## 2. 育成を目指す資質・能力と個別最適な学び・協働的な学び

- (1) 2030年の社会と育成を目指す資質・能力
- (2) 学校教育の情報化
- (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- (4) カリキュラム・マネジメントの充実

## 3. 教育課程の編成

- (1) 各学校の教育目標と教育課程の編成
- (2) STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進
- (3) 授業時数の取扱い

## 4. 教育課程の実施と学習評価

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (2) 「指導と評価の一体化」の考え方に立った学習評価の改善

## 5. 児童生徒の発達への支援

- (1) 発達の段階を踏まえた指導の充実
- (2) キャリア教育の充実
- (3) 個に応じた指導の充実
- (4) 障害のある児童生徒への指導
- (5) 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する指導

## 6. 学校運営上の留意事項

- (1) 教育課程の改善
- (2) 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

## (1) 2030年の社会と育成を目指す資質・能力

- ◆ 社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難→受け身では難しい時代に
- ◇ 変化を前向きに受け止める
- ◇ 人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにする
- ◇ 現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現する



(平成28年答申)

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、**一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識する**とともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生**を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するの、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた**教育課程**である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、**社会に開かれた教育課程**の実現が重要となる。

(小学校学習指導要領 前文)

## 教育課程編成の原則

各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童（生徒）の**人間として調和のとれた育成**を目指し、**児童（生徒）の心身の発達の段階や特性**（等、課程や学科の特色）及び学校や地域の実態を**十分考慮して、適切な教育課程を編成する**ものとし、これらに掲げる目標を達成するよう**教育を行う**ものとする。（学習指導要領総則第1の1）



関連する学習指導要領の規定

**児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指す**

- ・知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成（総則第1の2）
- ・そのための資質・能力の三つの柱のバランスのとれた育成（総則第1の3）

**児童生徒一人一人の実態に応じる**

- ・個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める（総則第1の2（1））
- ・**児童生徒の発達の支援（総則第4）** → **個に応じた指導**

**適切な教育課程の編成と実施**

- ・教育課程の編成（総則第2）
- ・教育課程の実施と学習評価（総則第3） → 主体的・対話的で深い学び、情報環境の整備と適切な活用

**カリキュラム・マネジメントの充実（総則第1の4）**

児童生徒の発達の支援（学習指導要領総則第4）

## 1 児童の発達を支える指導の充実

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 児童が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、**学習内容を確実に身に付ける**ことができるよう、児童や学校の実態に応じ、**個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習**などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、**個に応じた指導の充実にを図ること**。その際、第3の1の(3)に示す**情報手段や教材・教具の活用を図ること**。

## (2) 学校教育の情報化

第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの**情報手段を活用するために必要な環境を整え**、これらを**適切に活用した学習活動の充実を図る**こと。(学習指導要領総則第3の1(3))

### GIGAスクール構想

◇ **学習指導要領の趣旨が十分に生かされるようにすることが最も重要**

◇ **習得・活用・探究という学習過程の中でICTの効果的な活用**の方法を模索

◇ **家庭における学習との効果的な連携**の視点をもつ

#### ICT活用の特性・強み

#### ① 多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤

・ウェブブラウザによる情報収集、表計算ソフトによるデータ等の整理・分析、試行錯誤の繰り返し など

#### ② 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化

・写真や動画の撮影、保存による学習過程の可視化、振り返りや目標設定への反映 など

#### ③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有（双方向性）

・ウェブ会議機能、ファイル共有機能等による他の学校、地域や海外との交流  
・ウェブ会議機能等による他者との意見共有、比較検討、合意形成、協働制作 など

「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ（平成28年7月28日）より

### 学校におけるICT活用に際しての留意点

☞ ICTを**活用することが目的化してしまわないよう留意**

☞ **教育効果を考えながら**有効に活用

☞ **日常的な活用**により予想しなかった形で**児童生徒の可能性が引き出される**ことも

☞ **教職員の協働**による**創意工夫を生かして**活用

☞ **管理職**が教職員の**協働をリード**する

教科等での  
効果的な活用

◇ 学習指導要領に示す資質・能力の育成

◇ 資質・能力の育成に向けた、単元や題材  
など内容や時間のまとまりごとの主体的・対  
話的で深い学びの視点からの授業改善



上記の一環としてのICTの効果的な活用

児童生徒による  
日常的な活用促進

"すぐにも" "どの教科でも"  
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

慣れる  
つながる  
活用

各教科等  
での活用

STEAM教育等の  
教科横断的な  
学習

教師と子供が  
つながる

子供同士が  
つながる

学校と家庭が  
つながる

職員同士で  
つながる

GIGAに慣れる (文員や教員として使えるようにする)

教育効果

教職員の協働

主体的・対話的で深い学び

ICT活用

資質・能力



※地域間、学校間、教員間の差が生じている現状

### (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、**一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに**、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生**を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。

## (学習指導要領 前文)

- 全ての児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な児童により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、**子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」**が必要である。
- 基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た児童の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、**教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」**も必要である。
- 以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を**教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」**であり、この**「個に応じた指導」**を**学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」**である。
- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、児童同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する**「協働的な学び」を充実することも重要**である。
- 「協働的な学び」においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、児童一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。「協働的な学び」において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。

指導の  
個別化

協働

学習の  
個性化



個に応じた指導



互いに学び合う



多様な人々との協働



興味・関心、自分の目標等

# これまでも取り組んできた、一人ひとりに応じた指導

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

### 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

### 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

### 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見い出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

### 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

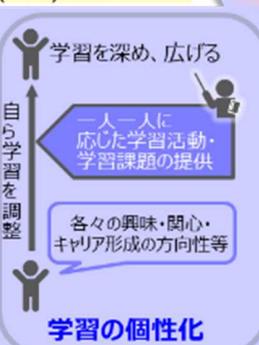
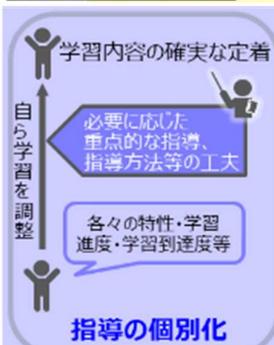
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達への支援

授業改善

資質・能力の育成

一体的に  
充実

授業外の  
学習の改善



これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

### 個別最適な学び (教師視点では「個に応じた指導」)

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供、一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視の考え方を生かす

### 協働的な学び

履修主義 ・集団に対して共通に教育を行う、一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含の考え方を生かす

平成29,30年改訂  
学習指導要領 前文

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

一人ひとりに応じた  
学習・協働

【子供の多様性】  
・特別な支援が必要  
・特定分野に特異な才能



教育効果 教職員の協働

ICT活用

単元や内容のまとまりを見通した単元構想  
(通過点の具体化)  
主体的・対話的で深い学び

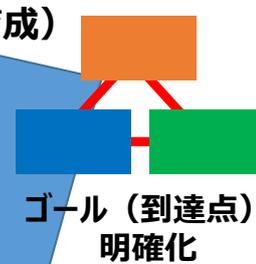
・一人ひとりの興味・関心  
・技能の差  
・理解度  
・学び方の方略の違い 等

目的

単元の目標の実現 (資質・能力の三つの柱のバランスの取れた育成)

単元構想

- ・単元目標、指導と評価の計画作成
- ・評価規準の具体化
- ・つまづきの見取りと支援 等



ICT活用

単元や内容のまとまりを見通した単元構想  
(通過点の具体化)  
主体的・対話的で深い学び

第〇時

第5時

第4時

第3時

第2時

第1時

個別最適な学び  
協働的な学び

個別最適な学び  
協働的な学び

手段  
手立て

# 指導の個別化

# 協働

支持的風土

# 学習の個性化

シンキングタイム・中間指導・Activityを組み合わせながら

### 【意図的な指導】

- ◆よりよい表現に気付くことができるような動画の視聴



- ◆デジタル教科書の活用によって適切な表現へと高める



### 【個に応じた指導】

- ◆子どもの学習状況を見取り、必要な支援を行う



### 【疑問や課題をみんなで解決】

- ◆困っていること、分からないこと等の共有  
→適切な表現をともに考える

### 【ペアワーク】

- ◆自分のことをもっとよく知ってもらえる自己紹介になっているか、互いに聞き合う  
改めて、よりよい表現に気付く



### 【一人ひとりがもつ課題】

- ◆自分のことをもっとよく知ってもらうための言語活動  
・名前、・好きな人・もの・こと、誕生日 等  
→話す内容の具体化（シンキングタイム）
- ◆好きなことを詳しく、会話しているように、話す順番に気を付けて 等



### 【自分の状態の把握】

- ◆動画で自己紹介を録画
- ◆振り返りで自分の伸びや成長を自覚



令和4年度 佐伯教育事務所第2回地域授業改善協議会【協議・演習】

## ICT活用の特性・強みや各教科等の特質を踏まえ、 資質・能力の育成に向かう1人1台端末の活用

**ICT活用の特性・強みや各教科等の特質を踏まえ、資質・能力の育成に向かう**  
**1人1台端末の活用**についての協議・演習を通して、**単元構想（指導計画）に基づいたICT活用の目的・場面・活用方法の具体を共有し、2学期以降の実践の充実につなげる。**

- ① **単元の指導計画を確認する**
- ② **単元の指導計画にICT活用場面を書き込む**
  - ・ **育成を目指す資質・能力を確認する**  
**（単元の評価規準）**
  - ・ **ICT活用の特性・強み、各教科等の特質を踏まえる**
  - ・ **ICT活用参考事例を参照する**
  - ・ **個別最適な学び、協働的な学びが実現可能な場面を想定する（⇒学習の個性化の視点）**
- ③ **単元計画を交流する（⇒後日送付）**

# できあがりイメージ

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、簡単な二次元の表に表したり読んだりしている。 ②棒グラフで表すと、数量の大小や差が捉えやすくなることなど、棒グラフの特徴やその用い方を理解している。	①データをどのように分類整理すればよいかについて、解決したい問題に応じて観点を定めている。 ②身の回りの事象を棒グラフに表し、特徴や傾向を捉え考えたことを表現したり、複数のグラフを比較して相違点を考えたりしている。	①進んで分類整理し、それを表や棒グラフに表して読み取るなどの統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

時間	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1次 データを整理する方法を考え、観点を定めて表に分類整理する。				
1	・データカードを、整理して並べる。		・思① (行動観察)	
2	・「その他」の使い方を知り、表にまとめる。	○知① (ノート分析)	○思① (行動観察、ノート分析)	
第2次 表や棒グラフに表すことができる。 表やグラフから読み取ったことを表すことができる。				
3	・棒グラフをかく。 ・棒グラフから分かることを言葉で表す。	○知② (ノート分析)		
4	・2つのグラフを比べて、分かることを表す。		○思② (ノート分析)	
5	・簡単な二次元表に整理する。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、分かることを表す。			
6	・複数の棒グラフから数値を読み取る。 ・1目盛りの大きさを考えてグラフをかく。	・知① (ノート分析)		
7	・正の字などを用いてデータを数えることができる。 ・交通量調査など、動くものを数える。 ・ペーパーテストに取り組む。	○知①② (ノート分析・ペーパーテスト)		
第3次 自分の調べたい問題について統計的に調べることができる。				
8	・問題を設定する。 ・計画を立ててデータを集める。	・知① (行動観察)	・思② (行動観察)	○態① (ノート分析)
9	・表やグラフに整理する。			
10	・分かったことをまとめる。 ・友達と交流する。			

●棒グラフを大型モニタに提示して、その特徴を話し合う。(知・技②)

●メモリの大きさの違う棒グラフを大型モニタに提示し、比較して見いだした相違点を書いたり説明したりする。(思・判・表②)

●教師が使う  
○児童生徒が使う

○交通量調査を行い動画で記録し、表に整理して棒グラフに表す。(知・技①)

○調査した項目について、結果を表計算ソフトにまとめ、棒グラフを作成する。(知・技①)

## ICT活用の特性・強み

### ①多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤

- ・ウェブブラウザによる情報収集、表計算ソフトによるデータ等の整理・分析、試行錯誤の繰り返し など

### ②時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化

- ・写真や動画の撮影、保存による学習過程の可視化、振り返りや目標設定への反映 など

### ③空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有 (双方向性)

- ・ウェブ会議機能、ファイル共有機能等による他の学校、地域や海外との交流
- ・ウェブ会議機能等による他者との意見共有、比較検討、合意形成、協働制作 など

小学校・第5学年・算数科・直方体を組み合わせた図形の体積①

福岡市教育委員会

育成を目指す資質・能力

図形を構成する要素に着目して、直方体を組み合わせた図形の体積を工夫して求めることができる。

ICT活用のポイント

体積を工夫して求めるために、何度も試行錯誤をし、考えの共有を行えるように活用する。

事例の概要

つかむ・見通す

【つかむ・見通す】ICT端末に問題を配布し、既習の学習との違いを見つけ、見通しをもつ。

考える

めあて 学習してきた図形になおして体積を求めよう。

【考える】①ICT端末を使って、直方体を組み合わせた図形のワークシート数種類を配布し体積を求める方法を考える。

深める

【深める】②ICT端末を使って、他者の考えを共有しながら実際に取り組むことで、考えの違いに気付く、理解を深める。

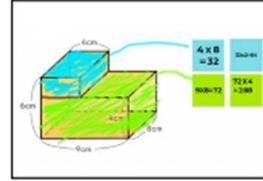
振り返る

まとめ 習っていない図形でも、これまでに習った直方体や立方体を基にすると体積を求めることができる。

【振り返る】ICT端末を使って、練習問題に取り組む。

小学校・第5学年・算数科・直方体を組み合わせた図形の体積②

【事例におけるICT活用の場面①】



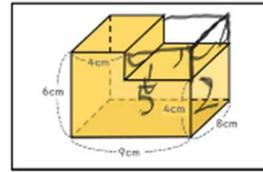
【ICT端末活用場面①】

直方体を組み合わせた図形を分けたり揃ったり、試行錯誤できるよ、ICT端末を使って組み合わせた図形を配布し、体積を求める方法を考えた。

・成果 直方体を組み合わせた図形の分け方、それに対応する体積を求める式を、色の使い分けや矢印を使って、考えを整理しながら取り組むことができた。

・課題 (左図で) 縦の長さがどこでも同じ8cmであることが分からない児童には、具体物を通して考えさせることが必要である。

【事例におけるICT活用の場面②】



【ICT端末活用場面②】

直方体に分けるという方法が多く、揃って直方体にするという方法が少数であった。その方法を全員で共有し、体積を求めた。

・成果 1つの考えをすぐに共有できるため、考えの違いに気付く段階で終えるのではなく、実際に取り組んでみるという活動を行うことができた。

・課題 それぞれの児童の考えをどのようにまとめて板書等に活かすか検討が必要である。

【活用したソフトや機能】 デジタルホワイトボードソフト、付箋作成機能

主な学習過程とICT活用のポイント、事例の概要

ICT活用のメリット、配慮事項、活用した機能

アンケート入力にご協力ください

第3回 (R4.11.28) 予告

第2回地域授業改善協議会アンケート

R4.7.29開催の協議会アンケートです。

gotou-ryuuta@oen.ed.jp (共有なし) アカウントを切り替える

\*必須

学校名をご記入ください\*

回答を入力

お名前をご記入ください\*

回答を入力

本日の協議会は、今後の授業改善の参考になりましたか\*

1 2 3 4

参考にならなかった     とても参考になった

本日の協議会で、特に印象に残ったことや学んだことをお聞かせください。\*

回答を入力

その他 (今後母校で取り組みたいこと、本日の講義・行政説明でのご質問があればご記入ください。) ※自由記述

回答を入力

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

送信

第3回地域授業改善協議会

- 期日 令和4年11月28日 (月) 13:30~16:30
- 会場 佐伯総合庁舎 4階大会議室
- 内容
  - 発表・協議
    - 1人1台端末を活用した実践交流
    - 今後の単元における1人1台端末活用について
  - 講義
    - GIGAスクール構想のもとでの1人1台端末の活用について
    - 【講師】鳴門教育大学 准教授 泰山 裕 氏
- 対象者
  - 管内小・中学校の採用4~7年目の教員 (各校1名)
  - ※該当者がいない場合は、教員1名

